

本校では、淡路市の手話言語条例の施行を機に、3年間で段階的に手話を学ぶ取り組みをしています。今年も7月に、全校生徒を対象に福祉体験活動の一環として手話教室を行いました。淡路聴覚障がい者センターから講師の方々にお越し頂き、聴覚障がいについてのお話の後、生徒や教師が参加して手話の実践が行われました。

1年生は、聴覚障がいとはどのような障がいなのか、コミュニケーションのとり方、日常生活において苦労されている点など、貴重なお話を聞くことができ、聴覚障がいについての基礎的な知識を得ることができました。また、初歩的な手話も体験し、聴覚障がいについて理解を深めることができました。

2年生は、昨年の基礎的な手話学習をベースに、手話実技の学びを深めました。挨拶の手話・名前を表す基本的な手話。好きなことや興味のあることの伝える手話を学びました。手話には表情や身ぶりなどを合わせることも重要で、コミュニケーション



コラム  
**人権の眼** No.55

### 手話教室

淡路市人権教育研究協議会  
理事（一宮中学校長）

### 西岡 幸雄

3年生は、これまでの学びの発展として、聴覚障がい者とコミュニケーションをとる際の留意点や、日常生活で役立つ手話を学びました。そして最後に手話を交えながら「淡路市民の歌」を歌いました。

子どもたちは、「いろいろな手話を教わり、これまでよりもっとたくさんの人と会話ができると思うと楽しみです。自分の名前、誕生日、曜日などたくさん話ができ、とても楽しかったです。また機会があったら学習したいと思いました。」と感想を語ってくれました。

今回の手話教室を機会に、困っている人、体の不自由な人に手を差し伸べることができ「優しさと勇氣ある人」になつてもらいたいと願っています。今後も多くの人々が手話に触れて、聴覚障がい者への理解を深めていただけるように、学習を続けたいと思います。



## 「君が、いるから」

兵庫県が製作する人権啓発

映画は、兵庫県内においても撮影が行われ、見慣れた風景が出てくる、とても身近に感じられる作品です。2018年度製作の本作品「君が、いるから」は、「子ども・若者の人権」をテーマとしています。

を絶ちません。今この時も虐待やいじめなどにより人権を侵害され苦しんでいる子どもや若者が「すぐ隣り」にいることに、私たちは気づかなければなりません。

この作品は、母親からの心理的虐待に悩む若者「奏」が主人公です。生き方を制限され、自分が愛されていると感じることができず自己肯定感の低い彼女も、コンビニエンスストアを舞台とした「ほんの小さな冒険」をきっかけに少しずつ変わっていきます。彼女は、そこで出会う人々のふれあいを通して新たな価値観に気づいていきます。とも心に心を通わせ、信頼することの先に「希望」と「幸せ」があることを奏の成長を通して描きます。



工藤綾乃  
鈴木勝吾  
寺田 農  
小林綾子  
中村玉緒



DVD  
字幕版付  
33分  
2018年度 兵庫県  
人権啓発協会 作品

### ●編集後記○

一年間、「まるごとじんけん」をお読みいただき、誠にありがとうございました。いよいよ暖かい春の季節がやってきます。4月から新しい生活が始まる人たちもおられるでしょう。特に、大学や就職で故郷を離れる皆さんは、新たな人生の第一歩となるのですから、期待に胸躍っていることでしょう。次のステップに向けて楽しんでください。(PA)

第54号のクイズの当選者は次の20名です。図書カードをお送りします。(敬称略)

- 吉川雅代(塩尾) 小島正蔵(志筑) 中谷菜摘(中田) 藤若真理子(生穂) やすださな(生穂) 西川みえ子(佐野) 野上勝尚(佐野) 空康弘(木曾下) 岡田憲明(久留麻) 山本幸子(久留麻) 田中勝代(久留麻) 山口乃布子(河内) 田中彰(南鶴崎) 丹野秀樹(岩屋) 嶋根雅子(岩屋) 地道郁恵(多賀) 菅谷奈緒美(人野) 下勝健司(南) 中山寛子(江井) 山林亜美(洲本市由良)

※正解は、「なましらすだん」。応募総数は、65通でした。